

第 60 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

開催日時:2019 年 1 月 17 日 16:00～

開催場所:東京都品川区上大崎 3-1-1 USEN 本社



■出席者

湯川 れい子 委員長
 富澤 一誠 委員
 品田 英雄 委員
 和合 治久 委員
 長谷川 演 委員

■欠席者

大林 宣彦 委員

■局側出席者

代表取締役社長 田村 公正
 コンテンツプロデュース統括部長 山下 光儀
 コンテンツプロデュース統括部編成部長 松本 茂雄
 コンテンツプロデュース統括部制作部長 村田 徹
 コンテンツプロデュース統括部制作部制作 1 課長 小島 万奈
 コンテンツプロデュース統括部制作部制作 1 課 野口 圭太郎
 コンテンツプロデュース統括部制作部制作 1 課 河田 真人

【番組審議会事務局:森角】

議事内容

1. 会社動向、放送事業動向についての報告

(1)第 55 期第 1 四半期経営成績について

前期に対し、売上高はエネルギー事業の順調な推移により大幅に増収。営業利益及び経常利益は人員拡充や販売促進費用増により減益。当期純利益は遊休資産売却や一過性の費用(本社移転に伴う特別損失)減少により増益。

(2)『U-Order』のリリースについて

2018年10月末、セルフオーダーと呼び出しベルを融合したスマート呼び出しベル『U-Order』をリリースした。お店の省人化を促進し、人手不足の悩みを解消する。

(3)年間ランキング表彰式について

2018年12月5日、「2018年間 USEN HITS ランキング」表彰式を開催。J-POP部門はDA PUMP「U.S.A.」、洋楽部門はアリアナ・グランデ「ノー・ティアーズ・レフト・トゥ・クライ」、演歌部門は三山ひろし「いごっそ魂」を表彰した。

(4)早稲田大学との共同研究について

2018年10月、早稲田大学マーケティング・コミュニケーション研究所と共に、音楽が働く場において生産性やコミュニケーションの円滑さにどのような効果をもたらすかを究明することを目的とした共同研究を開始した。

(5)東京藝術大学との共同研究について

オフィス向けBGM『Sound Design for OFFICE』では、東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科との共同研究で得られた成果を基に、「帰宅を促す音楽」の制作に着手した。

(5)『With Music』の発行について

2018年12月、会報誌『With Music vol.46(2019年1～3月号)』を発行。業務店/個人のお客様にお届けした。

2. 審議課題

駅構内を対象とするBGM演出について

3. 審議

【放送局】

今回は「駅構内を対象とするBGM演出」をテーマに、特に審議対象番組は設定せず、フリーディスカッション形式でご意見を頂きたい。USENはこれまで飲食店や小売店、理美容店等、様々な業種に向けてのBGMを開発し提案してきたが、今後新たなターゲットとして“公共性の高い空間”に対しても何かご提案ができるのではないかと考えている。公共性の高い空間にも様々あるが、最近、駅構内の演出についてのニーズが高まっていることもあり、今回のテーマとさせて頂いた。私共としては駅構内には、「誰にでも受け入れられる快適な雰囲気の醸成」、「地域活性化/地域の魅力発信の強化」、「トラブル防止/ストレス緩和/事故の防止」といったニーズがあり、それに応えるBGMの開発が必要だと考えているが、審議委員の皆様の観点からお気づきの点をご教示頂きたい。

【審議委員】

電車の車内ではなく駅構内の話という認識で良いか。

【放送局】

基本的には駅構内を想定して頂きたいが、ちょうど今、ある地域の観光ビジネスを担っている会社様からご依頼を頂いており、そこでは駅構内ばかりでなく車内も含めて、地域の活性化に貢献するBGMやコメント放送を提案できればと考えている。

【審議委員】

駅よりも車内にいる時間の方が長いために暇だと感じるので、車内に音楽があれば良いと思うが、まだ車内に BGM を流すというところまで話は進んでいないのか。

【放送局】

車内に BGM を流すという話にまでは進んでいないが、提案はできると思う。

【審議委員】

ぜひ提案して頂きたい。では今回は基本的に駅構内を想定してご意見を頂きたいと思う。

【審議委員】

私は頻繁に出張で空港や駅を利用するが、駅というものは日本全国どこに行っても特徴がない。わざと特徴をなくしているのかと思うくらい、テナントが入っている店も含め日本全国どこでも同じだ。そういう状況なので、音楽はすごく大事なのではないかという気がする。駅とは何か、と考えてみた時、私はその町の歴史であり、文化であり、記憶だと思う。駅に行く度に、そこにいる人や季節、風、空気等からその町の歴史、文化、記憶等の印象がインプットされていく。音楽には、「あ、ここに来たんだな」とか、「新しくなったんだな」と思わせる、駅の印象をプラスにする力があると思う。私の場合、駅を利用する目的は出張だが、毎週行っていると嫌になってくる。でも出張だとは思わず、旅だと思うとニュアンスが変わり、モチベーションが上がる。自分なりに嫌なことをプラスに変えていくわけだが、そこに音楽があればもっと良いだろうと思う。

駅への BGM 提案は当り障りなく収まりそうなインストゥルメンタル系になっている気がするが、少し思い切って攻めてみるのはいかがでしょうかと提案したい。日本だけではなく海外においても、例えば教会や学校等と同じく、駅は町の象徴の 1 つだ。町には必ず町の歌や歴史、文化に係わる何かの一つはあると思う。まずはそれをコンテンツとしてピックアップするとどうだろう。地元の有名な歌手もいるだろう。例えば札幌なら松山千春さん、帯広ならドリカム、函館なら北島三郎さん、みたいなアーティストが地域や駅をテーマにした「駅うた」を歌えば、町興しになるのではないかな。最近はプロの歌手ではなく、素人のカラオケバトルのようなテレビ番組が盛り上がりつつあるが、その地域の歌の上手い人でも良いかも知れない。USEN なら、「駅うたで町興ししませんか」という呼び掛けもできるだろう。思い切って攻めてみてはいかがか。

【放送局】

「駅うた」、良いですね。

【審議委員】

資料を頂いた時、面白くて挑戦的なテーマだと思った。今、人が集まる場所、公共施設や特に商業施設等はいかにして集客するかというということと、いかにして滞留時間を長くするかということを考え、魅力アップをはかっている。それは利用客ばかりでなく、店舗の売上促進に繋がり、企業にもメリットとなる。最近、ある鉄道会社の執行役員は著書の中で「電車に乗って頂かなくても儲かるビジネス」ということを書いていたりするし、鉄道会社が鉄道以外に手掛けている事業の中でも、エンターテインメントとか音楽は非常に有効利用できると思った。

ポイントとしては 3 つある。1 つは先述されている「地域の活性化」。駅の差別化だったり、駅の魅力を出すというところでは、駅ごとに発車ベルが違ったりするが、そこに地域性をいかに出すかだ。その 1 つは選曲となるだろうが、加えて例えばその沿線や駅のサウンドステッカーを作るとか、オリジナル曲を USEN で制作すると差別化になって面白いと思う。さ

らに言えば、USEN 制作楽曲、1 曲 1 曲の持つ効果について数値化したり、タグ付けしたりすることで見える化が進むと選曲にも役立つのではないかと。

2 つ目は集客視点ではなく、「働く人にとっての BGM」。自分のアルバイト時代を思い出すと、ずっと同じ曲が流れていて辛かった。また、「これ買え、これ買え」と販促ばかりしているのも気になる。売上に繋がるということも必要ではあるが、お店の魅力をトータルで考えて提案することも USEN が行う必要がある。それは駅にも言えることだと思う。

3 つ目のポイントだが、「スピーカーの良し悪し」は大きい。いくら選曲が良くても音が割れていたりすると逆効果だ。選曲というソフトを提供するだけでなく、ハードの部分も提案していけば商機につながるのではないかと。

最後に、最近は電車の中で 1 人 1 人がイヤホンで好きな曲を聴いている。それが昔と比べてどれくらい増えているのかはきっと肌感でしかわかっていないが、データとして把握すると良いだろう。鉄道会社に提案した時、「駅の中で音楽を流すといっても、今は 1 人 1 人が好きな音楽を聴くようになっていよう」と言われる可能性がある。その時、「何割はイヤホンで好きな音楽を聴いているが、そうではない人も何割いる」ということをデータで明確に提示できた方が良い。

嗜好性が多様化しているとは言いながらも、音楽 1 つでその場の雰囲気が変わったり、気持ちをつくるということもあるので、季節やその日のイベントに合わせた音楽が流れていると良いと思う。例えば、花火の日には花火の歌が流れているという具合に。今だけ、季節限定といった提案が注目される中で、コスト問題はさておき、時期に合う BGM を提案できると楽しいと思う。

【審議委員】

駅構内の現状のニーズとして、地域活性化や、地域文化の創出という面が求められているということだが、私は今まで医療系分野で、サウンド環境が健康面に大きく影響するのではないかとという研究をしてきたので、その経験をふまえて話をしたい。かなり前ではあるが、通勤時間における白血球の機能を調査したことがある。会社に向かうため家を出る時点、駅に着いた時点、会社に着いて仕事を始める時点、そういった各時点で白血球の機能を数値で見た。すると、家を出る時点と会社に着いた時点を比較すると、会社に着いた時点で数値が非常に低下していることが分かった。このことから、ニーズとして 3 番目に挙げられた「ストレスの緩和」は重要なことだと思う。また、今は毎日のように人身事故が起きているので、それをどうすれば少なくできるのか、ということにも焦点を当てて考えている。昨年、池袋や所沢の駅で、モーツァルトのディベルティメントや弦楽四重奏等のクラシックが実際に駅ホームで流れていた。私はこれらの周波数分析等を研究で行ったことがあるが、駅でこういったクラシックを流すことには意味があると感じた。

駅構内の環境を客観的に分析してみると、騒音、人の声、様々な人工音等、人間にとって不快なサウンドが多い。また、車内は特に過密という物理的な環境になるが、過密はすべての生物にとってストレスになる。視覚情報として不快に感じたり、すし詰め状態になると肩がぶつかり合う等、触覚刺激としても不快に感じる。そうした不快感の中、我慢を強いられて会社に行くわけだ。その不快感は自律神経バランスを大きく崩す要因となり、交感神経が非常に優位になるため、会社に着いた時点でイライラ感が募っている、業務への集中力が低下する、血圧が上がってめまいがする、等の不都合が起こる。その結果として当然、職場でも学校でもトータルの生産性は低下すると思う。また、この交感神経優位の生活は不眠にも繋がり、鬱傾向の方が増える。そうすると仕事が円滑に運ばず、引いては心身症になる方も出て、経営者は非常に困る。そして最悪の場合に起きるのが、人身事故、線路への飛び込みだ。その解決策を考えた時、音楽は一助になる可能性を持つ。自律神経バランスを崩している人の交感神経にブレーキをかけるための音楽、つまり交感神経の対になる副交感神経を刺激する音楽をうまくデザインすることが、ストレス緩和の 1 つのアイデアだと思う。

駅のホームには長時間いる方は少ないので、短い待ち時間でもそれを聴けば副交感神経にスイッチが入るようなパターンの楽曲を選曲すること。待合室の場合は長時間いる方もいるので、それに即したコンテンツを提供する。モーツァルト

等の副交感神経にスイッチが入るようなパターンを持つ楽曲や、オルゴールのように倍音がよく出るもの、季節や行事に見合った音楽を流すといったことを考えると良いと思う。

特に都会は、免疫学的には非常に貧弱なサウンド環境だ。生物がいない都内で周波数分析をすると、ほとんど1万ヘルツ以上はない人工環境だ。生の音は人間の声だけ。アウトサイドに行けば鳥の鳴き声、風のそよぎ音、虫の鳴き声等のハイパーソニックと言われる人間の可聴域以上の2万～10万ヘルツの音がある。そういった環境では免疫力も非常に高まると言われており、コルチゾールというストレスホルモンが非常に減るが、都会という環境にはそのパワーがない。それが私の最も危惧しているところだ。こういう環境下では、ウイルス感染症が非常に多くなったり、発がん率が高まるのは当然のことだ。これを音楽によってどう助けられるかを本気で考える時代が到来していると思う。ハイパーソニック・エフェクトと言うが、人間は可聴域以上の、音としては聴き取れない高周波成分からも影響を受ける。具体的には、耳を閉じても自分の声は喋れば聴くことができる。これは骨導として聴いていて、それ以外の部分は肌で感じている。肌で感じ取る高周波成分等の有効な音楽的要素は、今後都内や首都圏の人工環境の中では非常に大事ではないかと思う。とりわけ健康寿命の延伸を国が掲げているが、そこにも寄与できるのではないかと思っている。

【審議委員】

非常に為になる話に驚いた。今回のテーマは漠然としていて難しいと思ったが、私は駅のどこでBGMを流したら良いかを伝えたい。今日は京王井の頭線とJR山手線乗り継いで来たが、地元の最寄り駅から電車に乗るまで、まずここで音楽があったら良いなと感じた。最寄り駅は改札のある2階部分が結構広いのだが、ここに何も無いのは少し寂しく感じる。ここで何か考えられる要素がある。そして2階から降りてホームに行くが、ホームでBGMを流すと、近くの住宅街がうるさいのでここは無理だろう。しかし、待合室には必ず人がいるので音楽があった方が良いと思う。かなり小さな待合室ではあるが、10人程がイライラしながら立っているわけだから音楽が流れてきた方が良いと思う。

渋谷駅に着くと乗客が一斉に改札を通過して出て行くが、そこにかなり広いスペースがある。そのスペースの右側には巨大な壁画があるが、誰も見る余裕なく通り過ぎ、乗り換えて行くので、ここに何か音楽が必要だと強く感じる。JR渋谷駅のプラットフォームは電車が頻繁に来るため、正直ここで音楽はかけられないだろう。

また、今日の通り道ではないが、井の頭線から東京メトロの半蔵門線や副都心線に乗り換えるための道のりが非常に長い。一駅分くらい歩かなければならないが、人が多くてイライラしながら過ごすことになるので、ここにも何か音楽があると嬉しい。このように考えていくと、一駅一駅、音楽が必要な場所は違って来る。その場に行き、ここに音楽があったら良いなという場所を見つけ、ではどんな音楽が良いだろう、とひとつずつ考えると良いのではないか。少し細かい作業にはなるが、そう思った。また、ローカル線や新幹線で遠方に行く場合、例えば長野に着いたら「長野に着いた」とわかる音楽が流れてくるというのも良いと思う。

【審議委員】

私も今のご意見に非常に近い。新幹線の多くの駅のように周りに壁がないホームと、地下道も含め閉ざされた空間ではニーズが違ってくるとは思うが、例えばハワイに行く飛行機の機内では、どの航空会社でも現地に近づくとハワイアンが流れ出す。実際には今のハワイではハワイアンなんてもうほとんど演奏されていないが、ハワイの空港に着いた時にハワイアンが流れなかったら満足しないと思う。ハワイでニューヨークっぽいジャズが流れたりしたら違和感があると思う。沖縄に行くと沖縄の音楽が聴きたいし、その場所によってニーズがかなり違うと思う。都内でも、東京駅で流れる音楽と、秋葉原駅で流れる音楽は違うだろうし、それぞれの駅のカラーに合わせて違ったものが欲しい。ハワイに着く時にはハワイアン、と言ったが、ニューヨークではエレベーターの中まで音楽が流れていて、すごく良いと思った経験がある。ホテルの

レベーター内だったが、おそらく非常アナウンス等を流すような配線がしてあり、そこから普段は音楽が流れているのだろう。その時はデューク・エリントンのようなジャズが流れていて良いなと思った。ニューヨークならデューク・エリントン、日本の茅ヶ崎だと桑田佳祐さん、というようにその場所によって細かいニーズがあると思う。

先程、池袋駅でクラシックが流れていたという話があったが、池袋には以前からオーケストラのコンサートホールがあったりするので、そういう地域性も確かに持っている。ただ、今豊島区はクラシックばかりではなく、国際アート・カルチャー都市の実現に向けて、様々な文化施設を建設する計画があり、例えばアニメ・マンガによるまちづくりの推進にも注力されている。このような背景をふまえて、改めて「豊島区の音楽」について考えてみると、クラシックではないかも知れない。こうなったらもう端的に区長さんに、「どういう音楽が良いですか」と聞いてしまうとかした方が良い。音楽対してのニーズは高いと思う。

また、私は新幹線によく乗るが、新神戸駅のホームでは小鳥のさえずりがすごくきれいに聴こえることがある。自然音を故意に流しているのかと思ったが、そうではなくて本物の小鳥の声だ。行ったことのある方ならわかると思うが、新神戸駅はすぐ後ろに滝や池があり、様々な小鳥がいる。熱海の新幹線の駅のホームでも小鳥の声が聴こえて、とても良いなと思うが、これ BGM だって良いのに、とも思ったことがある。その場所その場所によってぴったり合うものがあると思うので、繰り返しになるが、そこの方に「どんな音楽が良いか」をヒアリングしても良いと思う。商工会議所や市役所、あるいは県庁等、飛び込みで行っても良いのではないかな。

【放送局】

地域のニーズを探るには、そのような努力も必要かも知れない。

【審議委員】

ヒアリングに行く時は手ぶらで行くのではなく、メニューを持って行き、「ここはこういう音楽があると良いと思うんですよね」と提案できたら良いと思う。例え話でするなら、地域ごとに特徴を持つご当地弁当。どのような音楽がその地域のお弁当に匹敵する音楽なのかということを選んでもらえるような方法を取ると、その地域もそれで活性化しようとしていたり、そのキャラクターを出そうしたりするのではないかな。そうすると、私たち旅行者もそのキャラクターを楽しむことができる。先述されていたが、今はどこの駅も同じで、駅前の顔も全部同じで、どこに来たのかわからない。それはとてもつまらないと思うので、音楽で個性を出せたら面白い。

【放送局】

皆様のご意見を伺い、両極端というか、大きく2つの異なるニーズがあると感じた。1つは、攻めの提案。具体的には、駅の個性を表現する演出だ。駅には人や文化、歴史、季節、イベントがあり、それらを表現するような BGM のニーズがある。「駅うた」というアイデアも頂いたが、これらは攻めの要素になると思う。もう1つは、マイナス面という表現は良くないかも知れないが、ストレス等、駅にある課題に対するソリューション提案。ストレスの緩和に寄与する BGM のニーズは高いだろう。当然我々はこれら両方のニーズをカバーしたいと思う。例えば、ハイパーソニックはさすがに USEN では難しいが、可聴域の中で副交感神経を刺激するオルゴールの音色で、季節やイベントに即した音楽ができれば、2つのニーズをカバーするコンテンツとなるのではないかな。副交感神経を刺激する音色で、メロディはその地域出身アーティストの楽曲という演出もありかと思う。

また、サウンドステッカーというアイデアも頂いたが、サウンドステッカーでも様々な挑戦ができる気がする。駅には当然様々な方が来られる。中には障害を持った方もいらっしゃるだろう。そういった方々をケアすることも大事だと思う。以前お

手伝いさせて頂いた中では、男性トイレ、女性トイレを音で案内するサウンドサインがあったが、そういったイメージで例えば、「この音が鳴ったら小田急線なんだ」と伝わるようにするのも、個性を出す1つの方法となる。駅構内やトイレでそんな音を流すのもありかと思う。

【審議委員】

どんな駅でも共通の部分と、駅によって異なる部分がある。トイレの場合はどこの駅でも同じなので、同じ音が使える。待合室も同じと言えば同じだが、音は変えた方が良く私は思う。

どんな小さな駅でもきっと、「うちが一番」と思っている。町興しは駅興しから始まる。「駅から始まる物語を作しましょう」という提案はいかがか。

【放送局】

なるほど。今はどこの駅も同じような感じで特徴がなく、駅前の姿も街並みもありきたりだという話があった。「駅から始まる物語」は良いかも知れない。

あとは、駅構内で働く人のことを考える必要もあるだろう。我々のBGMサービスに対しても、同じ曲ばかり流れるというクレームは0ではない。その場で働いている方にはより強く感じられることだと思う。そこにも配慮ができればと思う。

【審議委員】

リアルに考えると、平日と週末、また時間軸で客層が全く変わる。通勤時間帯は安心安全が良いと思うが、少し面白く攻める時間があっても良いと思う。曜日や時間帯でプログラムを変えるのも良いだろう。

【放送局】

それで言うと、乗り換え利用のためだけに使われる駅と、観光で使われる駅とでも違うかも知れない。

【審議委員】

池袋駅は乗り換え利用が多い駅として有名だが、10年くらい前から豊島区で定住人口を増やすためのプロジェクトが進められ、保育園や幼稚園等の施設や居住環境をはじめ、細かなニーズを徹底的に調べて整備を行った結果、定住人口が増え出生数も増えた。ニーズをしっかり掴めば成功する。成功させるためには、そこまで考える必要があるということだ。

【放送局】

そう言えば先週、ニュースで豊島区の成人式が取り上げられていた。アニメ声優がコンサートをして、コスプレ参加歓迎の成人式。ものすごく攻めているなと思った。

【審議委員】

アニメ・マンガによるまちづくりの推進の一環だ。コスプレと言うとアキバというイメージがあったが、実は豊島区は多くのマンガ家が輩出された、アニメ・マンガの聖地だ。その文化に触れることができるまちづくりを行い、世界のアニメファンに発信している。どうすれば来てもらえるのかを考え、一生懸命やって、成功してきている。

【審議委員】

確かに昔の池袋は駅の中だけで過ごすような感じで、街の広がりはなかったが、ここ 10 年くらい様々なアイデアを吸収して発展していると感じる。

【審議委員】

駅に BGM をプレゼンする際は誰にするのか。

【放送局】

基本的には鉄道会社様が多い。

【審議委員】

やはりそうか。それでは、なかなか攻めの提案は受け入れられないのではないか。

【放送局】

それはある。実際の提案現場では、「攻める」ということももちろん理解はして頂けるが、クレームが怖いと言われる。一步踏み出すと、クレームが来るというリスクを負うのでどうしても踏み出せない。誰にでも受け入れられる快適な雰囲気の醸成は必要でありながら、そこをいかに打破するかとなるが、その時、本日頂いたご意見は大変参考になる。地域の方々、行政と繋がり、そのニーズを掴み、それを根拠に一步踏み出しましょうとアプローチするという方法は有効だと思う。地域のための駅なので、地域の声には耳を傾けてもらえるだろう。それは武器になると思う。

【審議委員】

かなり昔の話だが、ある駅に行ったとき、その地域にちなんだ映画のテーマ曲が流れていた。有名な曲で明るいメロディなのだが、映画は非常に重たい内容だったと記憶しているため、そのメロディを聴いて、私はこの曲を駅で流して良いのか、と疑問に思った。軽く感じることができず、重たい気分になった。

【放送局】

地域のテーマ曲というイメージで選曲したのだろうが、人によってはそんなふうに思われることもあるということか。

【審議委員】

他の駅では、ある特定の企業の CM 曲が駅構内で流れているのだが、それも良いのだろうかという疑問に思ったことがある。ライバル会社の人はどう感じるのか、と。

【放送局】

一企業のイメージがつくのはどうか、ということか。そこも検討する必要はあるかも知れない。まだ少ないが、駅への導入実績もできてきた。昔はまったく踏み込めなかったところだが、第一歩は踏み出せたし、徐々にハードルが下がってきていると感じる。今後、駅のイメージ醸成は絶対に必要になるし、駅や車内の過密状態が引き起こすストレスの緩和も必要だ。そこに貢献していきたい。

【審議委員】

渋谷駅の壁画について述べたが、あそこに壁画があるということは、あそこに何か欲しいということだ。ほっとするようなものが必要だと判断されたから飾られているのだろう。絵が良いのであれば、音楽でも良いではないかと思う。そういう場所を探していくと良いのではないか。

【放送局】

音楽が必要でないように感じる場所でも、実際に使ってみると違ってくることもある。そうしてみると、意識するところはあるだろう。

【審議委員】

東京駅の待合室は非常に大きい。イライラしている人も多いだろうから、あそこそ絶対必要ではないか。

【放送局】

そうするとバスの待合室も対象となるだろう。鉄道の駅だけでなく色々なところにある、一定以上の過密性の高さを持つ空間や、「待つ」など何らかの理由から強制的にそこで過ごさなければならない空間等、音楽が必要な場所は広がる。

本日も様々なご意見を頂いた。繰り返しになるが、どの駅にもある普遍的なニーズと、地域ごとに異なるニーズをしっかりと分析していきたいと思う。JR 岡崎駅は、「ジャズの街岡崎」としてジャズで町興しをしていることから、「駅もジャズにしましょう」という提案で BGM が採用されたが、まだ少ないながらこういう事例もあるので、行政に対しても提案の仕方はあるのだろうと思う。提案方法も含め、今後の参考とさせて頂きたい。